

二小にここに ひまわりプロジェクト

東日本大震災の後に咲いた「ど根性ひまわり」・阪神大震災の後に咲いた「はるかのはまわり」を育てることを通して、4つの願いの実現を図ります。

- ①命を大切にする。
- ②困難に負けない。
- ③差別や偏見・いじめをなくす。
- ④震災を忘れない。

一人一苗を大切に育て、ひまわりが大きな花を咲かせることにより、コミュニケーションの輪が広がり、子ども達の心や地域に希望の花が咲くことを願っています。



ICT機器の効果的な活用

1人1台のタブレット端末、各教室にプロジェクターが整備され、学習内容に合わせたICT機器の効果的な活用を積極的に進めています。これまでの教科書やノート、プリント等による学習、図書等の活用と合わせて「わかる授業」を推進していきます。タブレット端末の持ち帰りにより、家庭学習やコロナへの対応、長期欠席児童との関係作りを進めています。



多摩第二小学校の教育

自分大好き 友だち大好き 笑顔とやる気の二小の子

学校教育目標

○考える子 ◎思いやりのある子 ○元気な子

めざす学校像 **創意のある学校・信頼される学校・活力のある学校**

めざす児童像

確かな学力を身に付け、学習意欲の高い児童
互いの人権を大切にし、豊かな感性をもち、思いやりのある児童
社会性や自主性があり、自立心が高い児童
健康な心とからだをもち、頑張り、やり遂げる児童

今年度の具体的な取り組み

- ◆学習指導の充実
 - ①学習指導要領に基づき、教育課程を適切に実施し、確かな学力を身に付けさせる。
 - ②少人数指導・習熟度別指導・TT等指導法や評価の工夫改善、ICT機器(大型テレビ・タブレット端末等)、プログラミング教材等の積極的な活用に努め、「わかる授業」を推進する。
 - ③授業研究(国語)を中心として校内研究の充実を図り、「教師の指導力」を高める。
 - ④「おおぞら」「にじ組」の安定経営を図るため、組織的・計画的・継続的な教育活動を行う。
 - ⑤すべての学習活動の中で実体験を重視し、問題解決力を高める指導を行う。[ユネスコスクールの活動]
- ◆生活指導の充実
 - ①基本的生活習慣の確立と学習規律や生活上のルールやマナーの定着。コロナウイルス対策の徹底。
 - ②児童・保護者との信頼関係を基盤とした積極的な生活指導を推進し、学校全体で組織的な生活指導体制を確立する。常に危機管理意識をもち問題行動の早期発見・解決に努める。[報告・連絡・相談・確認・記録の徹底]
 - ③学級内の特別な支援が必要な児童の早期発見と適切な対応を図るため、特別支援教育コーディネーターを中心とした指導組織体制の充実を図る。関係諸機関との連携を密にし、健全育成と不登校傾向の児童減少を図る。
 - ④安全指導を計画的に行い、防災や安全に対する意識や実践力を高める。
- ◆豊かな心を育む教育の推進
 - ①豊かな体験活動を工夫し、集団生活を通して社会の一員としての自覚や人間としての生き方について自覚を高め、多様性の理解や自他の生命や人権を尊重する心を育む。[道徳科、総合的な学習の時間の充実]
 - ②あいさつを大切にし、地域や福祉施設等に学校の取組を発信する機会を設け、学校への誇りをもたせる。
 - ③個々の良さを見つけて伸ばし、児童の自己有用感と自尊感情を高める。いじめのない学校づくりの推進。
- ◆開かれた学校づくりと信頼される学校づくりの推進
 - ①豊かな自然環境を活用した教育活動を推進し、積極的な情報発信(校内掲示板・学校ホームページ・学校だより・学年通信・学級通信等)や学校公開、学校行事で児童の様子を伝え、開かれた学校を目指す。
 - ②学校評価の効果的な活用を図り、家庭や地域と連携し、さらに信頼される学校づくりを目指す。
 - ③コロナ禍の中でもできる限り地域・保護者とふれあい、信頼関係の構築に努める。
 - ④保護者・地域から信頼されるコミュニティ・スクールの実現。
- ◆幼稚園・保育園・小学校・中学校との連携の推進と教育環境の整備、教育予算の効率的な執行
 - ①地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校・児童保育所等との連携を大切にし、児童の指導に生かす。
 - ②学校施設の利用と安全点検の重視。[掲示物・表示・花・絵・音楽等での豊かな環境づくり。清掃活動の徹底と校内巡視の徹底]
 - ③教育予算の適正な執行、備品・消耗品の適切な管理と丁寧な取り扱い、節電・ゴミ減量・ペーパーレスに努める。
- ◆教職員の働き方改革の推進と明るく活力に満ちた職場環境の醸成と保護者・地域との効果的な連携
 - ①教職員が誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整え、能力を最大限に発揮できるようにする。
 - ②効果的なOJTを推進すると共に苦手な分野は互いに補完しあい、学校組織総体として組織力の向上を図る。(得意分野は倍の働きを、苦手な分野は助け合いの精神で思いやりのある職場環境づくり)
 - ③研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、保護者・地域と連携し学習内容の確実な定着を図る。
 - ④保護者や地域、近隣大学等との効果的な連携を図り、教育活動の充実を図る。

地域環境を生かした教育活動 SDGsを踏まえたESDの推進

大栗川やなな山など、地域の自然、文化、伝統、人材などを積極的に活用して、地域に根ざし地域と連携した教育を推進します。また、ユネスコスクール登録校としてSDGsを踏まえたESDを推進し、再生可能エネルギーを中心とした環境教育や人権教育の充実を図ります。学習の成果を発信することに重点を置き、問題解決能力を育てるとともに、生命尊重の精神と豊かな心を育てます。



特別支援教育の充実

児童一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習や生活学習上の困難を改善・克服するため、必要な指導を行っています。また、特別支援学級「にじ組」及び特別支援教室「おおぞら」と通常の学級との児童及び教員の交流・連携を一層進め、個に応じた指導の充実を図っていきます。



異学年交流・縦割り班活動

年間を通して、縦割り班遊び、1・2年生の学校探検・地域探検・昔遊び等の異学年交流を行います。コロナ禍の中、安全に配慮し工夫した活動を実践していきます。豊かな人とのかかわりを通して、責任感を育て、協力することや我慢すること、信頼すること等の社会性を育みます。

